

5年2組 図画工作科学習指導案

6月20日(水) 3限 図画工作室
授業者 坂井 容子

- 1 題材名 “キモチ”を伝える～凸凹カラフルキャンバス～
- 2 本題材における知識創造

身近材や液体粘土などの素材のおもしろさを生かしてつくった凸凹キャンバスに、「色」「形や線」それによる「表れ」にこだわりながら自分の“キモチ”が伝わるように色をつける活動を通して、様々な感じ方・考え方・表現に出会い、自らの感じ方・考え方・表現を更新していく営み

日常生活の中で、子どもたちはノートの端や運動場の土の上に思いのままに自由な線で、落書きを楽しむ姿が見られる。一見無意味な形や線は、後で見直すと何らかの意味をもって見えてくることがある。

本題材は、液体粘土と凸凹のある身近材などの素材でキャンバスをつくり、目に見えない自分の“キモチ”のイメージを様々な表現技法を試しながら相手に伝わるように色をつけることで、自分らしい感じ方・考え方・表現につなげていくことをねらいとする。

これまで、子どもは前題材の「あなたも感じて私の感じ」の学習の中で、対象（この場合は風景）から感じた自分の思いを自分が選んだ表現で絵に表し、「なりきりアーティスト・あなたも感じて私の感じ」で、他者の作品を作者になりきって紹介する鑑賞の活動を経験している。それらの活動の中で、自他の作品の交流の場をもち、互いの感じ方・考え方・表現を比較し、少しずつ自分自身の「価値観」を広げようとしている。子どもたちは、自分の表現で描いた絵が他者にどう伝わっているか、もっと伝えるためにはどうしたらよいか思い返し、自分の表現を見直しながら、より良い表現をさぐっている。

本題材は自分の“キモチ”をテーマに、つくろうとする作品のイメージをもち、それを描くための凸凹なキャンバスを段ボール・砂・ひもなどの身近材料と液体粘土でつくる。その後、そのキャンバスに自分のイメージを「色」「形や線」それによる「表れ」に着目して相手に伝わるように表現する学習である。学習を展開するに当たっては図画工作科における4つのステージを以下の活動に位置づける。

- ・“キモチ”のイメージを形に表し、キャンバスの形を決める。【導入】
- ・“キモチ”のイメージに合わせて、身近材を重ねりや構成を考えて貼り、液体粘土で固めた凸凹ホワイトキャンバスをつくる。【製作Ⅰ】
- ・“キモチ”を表すための「色」「形や線」それによる「表れ」にこだわりながら絵の具で色をつけ、友達の表現に触れながら凸凹カラフルキャンバスをつくり上げる。【製作Ⅱ】
- ・完成した作品を使って「なりきりアーティスト」の活動をし、学習をふりかえる。【鑑賞・評価】

“キモチ”という目に見えない無形のものを形にし、絵に表すには明確な答えがあるわけではない。キャンバスの形、身近材の構成、絵の具を使った表現において、子どもは発想面・技能面での不安を抱く。そこで、活動ごとに自他の感じ方・考え方・表現が比較され判断する場をもつ。例えば、単色で寒色系の「色」で表現した場合は悲しい“キモチ”に感じたのに、暖色系の色と組み合わせると楽しい“キモチ”に感じたり、寒色系でも曲線を使うと違う“キモチ”に感じたりする。そのことを、子ども自身がお互いの交流の中で表現の共通性と差異に気づき、自分の表現を見直し、その後の製作に生かしていく。また、画用紙とは違った凸凹画面上の「表れ」を楽しみ、道具やテクニックを選び、子どもは発想を広げていこう。それらの活動を通し、子どもは自らの「価値観」を広げ、更新していくと考える。

3 知識創造の力を育むために

(1) 本題材における「かかわり」の活性化

本題材の活性化の場面と表れの姿は次の2つである。

【導入】【製作Ⅰ・Ⅱ】の場面で：製作のそれぞれの段階で、子どもが思いをもって表現する中で、互いの感じ方・考え方・表現の出会いを求める姿。

【鑑賞・評価】の場面で：他者の表現からどう感じたか、また反対に自分の表現が相手にどう感じられたのか、伝え合うことで自分の見方・感じ方が他者の見方・感じ方と出会い、共感したり差異を感じたりしながら、更に自分の新しい見方・感じ方に気づいている姿。

(2) 本題材における「かかわり」を活性化させる手立て

ア 自分の思いや意図をもつステージで：【導入】 つくりたい“キモチ”を形にするのは曖昧で難しい。自分の表現に対する不安の解消のために隣同士・全体で見合う活動を通して共通点や差異に気づき、自分の思いを明確にさせるようにしたい。

イ 感じ考え表現するステージで・ウ 「価値観」を広げ 更新するステージで：【製作Ⅰ・製作Ⅱ】 子どもたちは目新しい素材に出会い、つくることを楽しむことが予想される。しかし、題材名の『“キモチ”を伝える』からもわかるように、伝えることを意識した表現を目指している。そのため、自分の“キモチ”が伝わるように表現できているかを問う場面をもつ。それによって生じる、揺らいだ状態から不安を解消するため、交流の場をもち、他の表現と出合わせ、「色」「形や線」それによる「表れ」に立ち帰り、表現の幅を広げたい。

エ 今の自分の「価値観」を認識するステージで：毎時間の授業のふりかえりを自分が感じたこと・考えたこと・新しく発見した自分をワークシートに記入しながら自己評価活動を行う。【鑑賞・評価】 では活動のまとめとして、自他の作品を見つめ・見つめられることから気付く「変わった自分」「新しく発見した自分」とは何か、どんな新しい学びにつながったのかをみつめ、「かかわり」の重要性に気づかせたい。

4 学習計画（総時数 8 時間）

主な活動と内容	「かかわり」を活性化する手立てと教師の意図
<p>1. 学習内容をつかむ ①</p> <p>○題材名や材料から思いを広げ 活動の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスってどんなもの？絵を描くための、四角くてザラザラした布でできているよ ・身近にある材料と液体粘土で凸凹キャンパスをつくろう ・出来上がったキャンパスに 目には見えない自分の“キモチ”を表してみよう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の“キモチ”を伝える凸凹カラフルキャンパスをつくろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・“キモチ”に合うキャンパスの形を考えてつくろう 	<p>○自分の思いや意図をもつステージで</p> <p>表出</p> <p>ここでは、自分が表現しようとする“キモチ”を決めて、あいまいな自分の“キモチ”という抽象的なものをサークルマップを使って考えを持たせる。</p> <p>子どもたちは、“キモチ”を形に表すと安易にハートやクローバーなど具体物の形にしてしまうような傾向がある。子ども達が描いた形を“キモチ”ごとに分類して黒板に貼ると、感じと形のつながりが見えてくる。例えばうれしい感じを表すのは曲線が適していることや、曲線を使った形にも様々な形があることに気付かせる。</p>
<p>2. 凸凹ホワイトキャンパスをつくる ②③④⑤ 【製作Ⅰ】</p> <p>○“キモチ”のイメージを「形」「材料」「構成」にこだわってつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスの形を決めて段ボールを切っていこう ・砂、ひも、ネット、... 材料をどんな感じに貼ろうかな <p>○液体粘土を塗る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・液体粘土で 新しい身辺材をくっつけられるよ ・液体粘土って面白いね 真っ白に変身したよ <p>○学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○君の作品は 表面の凸凹がきれいに見えるね ・イメージに近づけるためにどんな色をつけようかな 	<p>○感じ 考え 表現するステージで・「価値観」を広げ 更新するステージで</p> <p>表出・共有</p> <p>キャンパスづくりでは仕上がりのイメージを意識して、自分の“キモチ”を表すために「形」「材料」「構成」にこだわってつくる。キャンパスの表面の凸凹は偶然にできた形ではなく、意図をもった画面づくりを目指したい。自分の“キモチ”を表すための象徴的なものをイメージさせて、様々な身辺材の組み合わせや構成を考えさせることで、より自分のイメージを明確にできるからである。</p> <p>また、出来上がった自他のキャンパスを見つめ、今後の製作について見通しをもたせる。</p>
<p>3. 凸凹カラフルキャンパスをつくる ⑥⑦ 【製作Ⅱ】</p> <p>○参考作品を見て表し方について思いをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直線や曲線など線によってイメージが違うよ ・私たちの知っているテクニックと良く似ている <p>○色・形や線・表れにこだわってつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来上がった凸凹ホワイトキャンパスに色をつけて自分の“キモチ”のイメージに近づけよう <p>○お互いの作品を見合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品を見てみよう 同じ“キモチ”でも色や表し方が似ている所と違うところがあるよ 他の作品のよさを取り入れて自分のものとなげよう 	<p>○感じ 考え 表現するステージ・「価値観」を広げ 更新するステージで</p> <p>共有</p> <p>ここでは、色をつける前の自分の作品が、目指すイメージ通りに伝わるかを問う。今以上に伝わるように、参考作品で色つけについての指針を示す。参考作品の表現から「色」「形や線」それによる「表れ」に着目し、既習のものに似ていることに気づかせる。その後、製作の途中でお互いの作品を見合う時間をとる。友だちの作品との共通点や差異に注目させ、「色」「形や線」それによる「表れ」の3点をポイントに板書に位置づけながらまとめ、今後の指針としたい。</p>
<p>4. 鑑賞会をして学習をふりかえる【鑑賞・評価】⑧</p> <p>○「なりきりアーティスト」の活動をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品を、作者になりきって紹介しよう ・温かい感じの色を使ってうれしい“キモチ”を表したよ ・私の作品は 悲しい感じを表すために ビー玉を転がして模様をつくったら 他の人にも伝わったよ <p>○学習のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“キモチ”をあらわすには色・形や線・表れに気をつけて描くと 	<p>○今の自分の「価値観」を認識するステージで</p> <p>結合</p> <p>作品から受ける感じをそれぞれが作者本人になりきって紹介する。少人数のグループに分かれて、今の自分の見方・感じ方でもとらえた思いをもとに話す。その活動を通して、友達の感じ方に共感したり、自分の感じ方との違いに気づいたりし、表したキモチが「色」「形や線」それによる「表れ」によって伝わることを実感する。そして、様々な「価値観」に出会うことで自らの見方・感じ方を広げ、</p>

自分の気持ちが伝わったよ ・自分の見方・感じ方・表し方が広がったよ	更新していくであろう。
--------------------------------------	-------------

5 本時の学習 (6 / 8)

(1) めざす知識創造 ・「色」「形や線」それによる「表れ」を観点に、お互いの感じ方・考え方・表し方に出会い、より自分の求めるイメージに合う表現につなげていく営み

(2) 展開

主な活動と内容	時	「かかわり」を活性化する手立てと教師の意図
<p>1 学習内容をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 液体粘土が乾いてカチカチになったよ 友だちの色をつける前の作品から受ける感じについて話し合ってみよう 色をつけて 自分の“キモチ”にもっと近づけよう 参考作品はどんな“キモチ”を表しているのかな 不思議な形や線が見えるよ 暖色を使っているからうれしい感じがするよ 線の描き方は直線を使っていてかすれているから淋しい“キモチ”を感じるよ ビー玉を転がしたような線がみえるよ ローラーで塗ったような跡もみえる 私たちの知っている表し方に似ているよ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「色」「形や線」それによる「表れ」にこだわって 伝わるように色をつけよう</p> </div>	10	<p>表出・共有</p> <p>色をつける前の白いキャンバスを隣同士で見合い、“キモチ”が伝わるかを話し合う。色のない状態では“キモチ”は伝わりにくいと判断することが予想される。もっと思いが伝わるような色のつけ方に、子ども達の意識が向かうように参考作品を提示する。</p> <p>参考作品から「色」「形や線」それによる「表れ」に着目させる。そうすることで、色の寒暖・軽重や線のもつイメージ、それらの凸凹画面上の「表れ」などから製作の見通しを持つことが出来るであろう。そして、既習を生かしながら、4年時に経験している「テクニック」の表現につなげていくように、全体場で確認する。</p>
<p>2 製作する</p> <ul style="list-style-type: none"> 優しい感じを表したいから 筆だけじゃなく スポンジを使ってみようかな 色の感じを考えて絵の具の色を選ぼう 青っぽい色をつけたビー玉を転がしたらさびしい感じが出せたよ 自分と同じ“キモチ”をつくっている友だちはどんな表し方をしているかな 	20	<p>表出</p> <p>使用できそうな道具を予め準備しておく。すぐ使えるようにすることで表現の追及ができるだろう。ローラー、スポンジ、ビー玉、ブラシなどを準備し、自分の持ち物の中からも使える道具（鉛筆のキャップなど）がある事を知らせておく。</p> <p>共有</p>
<p>3 大切にしたいことを観点に作品を見合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ“キモチ”をつくっている者同士が集まって、色・形や線・表れに注意して作品を見てみよう 自分だけでは思いつかない色の組み合わせや線の描き方 テクニックをみつけたよ ひとり一人の作品は違うけど 同じ“キモチ”を表すための共通点をみつけたよ 	10	<p>同じ“キモチ”をつくった者同士がペアを作り、「色」「形や線」それによる「表れ」を観点に、共通点と差異について話し合う。共通点からは目指す表現のモデルを見つけ、差異点からは自分の表現に生かせる可能性があることに気づかせたい。話し合ったことを全体場で発表し、板書に位置づけ、全体に広めこれからの製作に生かせるようにする。</p> <p>結合</p>
<p>4 活動のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの作品の写真を見て、それぞれの作品の変化を見てみよう だんだん“キモチ”が表れてきたよ まだ線が足りないから増やしていこう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「色」「形や線」それによる「表れ」にこだわって求めるイメージに近づいたよ 友だちの表現に出会ったからだ もっと表したい“キモチ”が伝わるようにしよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 友だちのアイデアも取り入れて思い通りの作品をつくり上げよう 	5	<p>着色する前の作品の写真を配り、それぞれの作品がどの様に変化したかをふりかえる。自分の表現だけでなく、友達のものをつなげて色をつけたことで、より自信を持って取り組めるようになったことに気づかせたい。更に、どうしたらもっと“キモチ”が伝わるか、足りないところは何か問い、次時のめあてを持たせるようにしたい。</p>